

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	キャリアガイダンス（688）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	大内 香那子				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授 業 形 態	演 習	教 室	ライブ配信	補 助 教 員	各担任	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 材	仕事力を身に付ける２０のステップ					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回～3回 人生の3つの要素（人間関係・財産・仕事） 4～6回 社会人としての基礎マナー 7～9回 ロジカルライティング基礎 10～12回 プレゼンテーション基礎 13回～15回 他者から見た自分を知る 16回 サンクスドリル基礎学力テスト 【後期】 1～3回 過去の行動から見た自分を知る 4～6回 社会が求める人材像 7～9回 社会人インタビュー、社会人トークセッション 10～12回 キャリアデザインマップをつくる 13回～15回 まとめプレゼン 16回 サンクスドリル基礎学力テスト		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	プログラミングⅡ (847)				教 科 区 分	専 門 教 育 科 目
					必修 / 選 択	必 修
担 当 教 員	高山 健				実 務 経 験 内 容	
					(高山) 農機に搭載するカラー液晶メーターのプロトタイプをJavaで開発。組み込み機器のテスト手法確立や量産ソフトのプロトタイプ開発を行った。	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来Webアプリケーションエンジニアとして活躍できるスキルを身に付ける。PHPはWebアプリケーションに特化したプログラミング言語である。また、データベースとの連携も可能で、動的なホームページ作成も可能である。同時にセキュリティについても考察し、安全なwebサイト構築が可能な技術を習得する。						
授 業 形 態	講 義	教 室	131教室	補 助 教 員	なし	
Webアプリケーションの制作が可能なプログラミング言語であるPHPを用い、プログラム作成を中心に授業を実施する。講義にはテキストおよびノートパソコンを使用する。						
教 科 書 材	スラスラわかる PHP 第2版 貸与ノート型パソコン(授業内で適宜使用)					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回 PHPとは（環境設定） 2回 変数の宣言方法、型 3～6回 制御構文 7～8回 二重ループ、無限ループ 9～12回 配列、連想配列、二次元配列 13～16回 関数 17～20回 ファイル操作 21～24回 フォームとの連携 25～28回 webアプリケーションの設計 29～32回 制作課題 【後期】 33～36回 データベースとの連携 37～40回 セッション管理(クッキー) 41～44回 セキュリティ 45～64回 制作課題		

評価コード	3	
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	ネットワークⅡ（734）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	藪木 潤一				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
1年次に学んだネットワークの基礎知識をもとに、実際にネットワーク構築、接続、トラブルシューティングを演習を通して行う。また、昨今用いられている仮想環境と実ネットワークの関係を理解し、両者を統合したネットワークインフラの理解と構築の実践を行う。						
授 業 形 態	演 習	教 室	162教室	補 助 教 員	なし	
授業はノートPCと実際のネットワーク機器を用いた演習が中心となる。演習に基づいた課題を行い提出させる。理解度を測るため授業中に小テストも行う。						
教 科 書 教 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 4回 L2ネットワーク□ 5～ 8回 VLAN 9～12回 仮想環境下でのL2/L3ネットワーク 13～16回 仮想環境下でのサーバ構築 17～20回 HTTPサーバ 21～24回 DNSサーバ 25～28回 VPN 29～32回 総合演習		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	テクニカルスキルⅠ（891）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	鳥居 茂希				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
ネットワークはITインフラの基盤でありIT技術者には必須の技術である。より実践的なスキルを身に付けるため、Ciscoより提供されたシミュレータソフトで、デバイス（ルータ、スイッチ）設定の実習、実技試験を必要に応じて実施する。授業はCCNA（Cisco技術者認定試験）合格カリキュラムに準じた内容で、2年間をかけて順序良く授業を進める。進行状況に合わせてルータ、スイッチの設定等の実技も習得し、CCNA合格も目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにシミュレータを使った実習も行う。実習で使う題材は、学生イントラネットにあるものを利用する。実習は授業時間内に実施するスキル試験により評価を行う。評価は完成度とする。						
教 科 書 材	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(毎授業で使用) 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 2回 環境設定/授業説明 3～ 4回 ネットワークの基礎(1年次の復習) 5～10回 Ciscoルータの初期設定 11～32回 ルータの機能とルーティング 【後期】 33～42回 OSPF 43～52回 ACL 53～62回 NAT・DHCP・DNS 63～64回 総合演習		

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を越えた場合は、60点を越えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を越えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	情報セキュリティⅢ（942）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	荒井 豊文				実 務 経 験 内 容	
					（荒井）システムエンジニアとして、システム開発、維持・運用の業務に携わった。	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	3	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
I 年次に学んだセキュリティの知識をもとに、サーバ環境に対するセキュリティ対策を中心に実際にサーバを構築しながら実践を通して学ぶ。						
授 業 形 態	演 習	教 室	131教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 教 材	セキュリティの技術の教科書 株式会社アイテック 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2 単位時間／回 【2年次前期】 1～ 4回 仮想サーバ(Linux)の構築 5～ 8回 SELinux, SSHサーバ 9～12回 サービス制御 13～16回 ファイアウォール制御 17～22回 アカウント管理と認証 23～28回 DNSサービス 29～32回 電子メールサービス 【2年次後期】 33～36回 ログ管理 37～40回 バックアップ管理 41～44回 モニタリング 45～48回 総合演習		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名		UNIX (944)				教 科 区 分	専門教育科目
						必修 / 選択	必修
担 当 教 員	井上 真人					実 務 経 験 内 容	
						[井上] エンジニアとして、デジタル家電や特殊業務機器の設計・開発を担当。学内ではAIに関する授業、特別講座などを担当。その際の知識・経験を活かして講義をする。	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次			
	-	2	-	-			
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標							
将来のITエンジニアとして、Linuxオペレーションの知識は必須である。本授業では、Linuxの基本知識、コマンドラインオペレーション、特権アカウントでの簡単な管理オペレーションの学習を行う。そしてWebサーバやDNSサーバなどの構築を通じて、Linuxに関する知識を深めていく。また、これらの知識の証明として、各種資格試験（LinuC101、LPIC101、Linux Essentials）への合格も目指す。							
授 業 形 態	講 義	教 室	131教室	補 助 教 員	なし		
授業は講義形式であるが、ノート型パソコンを使った実習を行う。実習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、学生イントラネットにあるものを利用する。理解を深めるため、定期的に演習問題を実施し、提出とする。提出方法については、その都度説明する。							
教 科 書 材	1週間でLPICの基礎が学べる本 第3版，中島能和，インプレス 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）						

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回		
【前期】		
1～ 3回 授業ガイダンス、シェルの役割と基本操作、便利な機能、シェル変数と環境変数		
4～ 6回 シェルスクリプトの基本、引数と終了ステータス		
7～ 9回 ファイルの検索、テキストファイル内の検索と便利なコマンド		
10～12回 パッケージ管理、ハードウェアとLinux、ファイルシステム		
13～15回 マウントとアンマウント、ディレクトリの配置と役割		
16～18回 プロセスの管理、ジョブの管理		
19～21回 ネットワークの設定と管理、ネットワークを利用するコマンド		
22～24回 ログとログファイル、システム状態の確認コマンド		
25～27回 サーバー構築演習1		
28～30回 サーバー構築演習2		
31～32回 まとめ、定期試験について		

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	サーバ構築（843）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	藪木 潤一				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 数	1年次	2年次	3年次	4年次	
週 間 時 数	-	3	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
システムの稼働環境はこれまでのサーバを購入して環境を構築するオンプレミスから、サーバ台数やネットワーク構成を需要に応じて臨機応変に変更できるクラウドに急速に変化しつつある。本科目ではオンプレミスとクラウドの違いを理解するとともに、Amazon Web Service を利用し、クラウド上に実際に環境を構築する演習を通じて、即戦力を養う。						
授 業 形 態	実 習	教 室	162教室	補 助 教 員	なし	
ノート型パソコンを使った演習を行う。実習で使う題材は、AWSを利用する。理解を深めるため、定期的に演習問題を実施し、提出とする。提出方法については、その都度説明する。						
教 科 書 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 2回 科目担当紹介、科目概要、クラウドのコンセプト 3～ 4回 ネットワークとコンテンツ配信 5～ 6回 コンピューティング 7～ 8回 ストレージ 9～10回 データベース 11～12回 自動スケーリングとモニタリング 13～14回 クラウドエコノミクスと請求 15～16回 AWS グローバルインフラストラクチャの概要 【後期】 17～18回 クラウドアーキテクチャ 19～23回 Webサーバの構築実習 24～27回 Wordpressサーバの構築実習 28～31回 Dockerコンテナの構築実習 32～35回 Lambdaアプリケーションの構築実習 36～40回 セキュリティを考慮したAWSインフラストラクチャの設計実習 40～43回 セキュリティを考慮したAWSインフラストラクチャの構築実習 44～48回 Amazon AWS Certified Cloud Practitioner 認定試験対策	

評価コード	13	
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	プレゼンテーション技法（198）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	新美 あゆみ				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
プレゼンテーション能力は、自分の意図を的確に相手に伝える能力のことである。ビジネスでは、企画説明や営業活動といったいわゆる「発表」するシーンだけでなく、日常の報告や連絡など、誰かに何かを伝える状況が非常に多い。そのため、近年プレゼンテーション能力は大変重要視されている。では、相手に伝わりやすくするために何に気をつけたらよいのか。授業では、①視覚資料の作成テクニック ②ストーリーの組み立て ③話し方・立ち居振る舞い の3項目について、具体的に各自ストーリーの組み立てからプレゼンテーションの作成、発表までを経験し、これらを通して「伝える力」を身に付ける。						
授 業 方 法	実 習	教 室	342教室	補 助 教 員	なし	
身近なものをテーマとして、プレゼン資料の制作、発表、評価、改善行う。資料については、ノートパソコンを使用しPowerPointで作成する。						
教 科 書 教 材	オンライン教材 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1～ 2回 伝わるデザインの基礎知識 3～ 4回 書式設定 5～ 6回 ストーリーの組み立て・話の構成のコツ 7～ 8回 ブラッシュアップ・内容の絞り込み 9～11回 リハーサル・振り返りと改善ポイント 12～15回 スライドマスター 16～24回 課題制作 25～32回 発表		

評価コード	13	
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	業務知識（935）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	荒井 豊文				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次	
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
社会へ出ると、企業や業種特有の用語や言葉が日常的に飛び交い、覚えていく内容も多くなる。コンピューター・IT分野の学生は、卒業後には、様々な業種のシステム構築に携わることがあるため、より多くの企業用語を理解する必要がある。						
授 業 形 態	講 義	教 室	342教室	補 助 教 員	なし	
テキストを使用し、業務に関する基本的な知識を身につける。また、演習を通して、実際に業務管理を模擬的に実施する。						
教 科 書 材	ITエンジニアのための【業務知識】がわかる本					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1～ 4回 会社経営、確認演習 5～ 8回 財務会計、確認演習 9～12回 販売管理、確認演習 13～16回 物流・在庫管理、確認演習 17～20回 生産管理、確認演習 21～26回 人事管理、確認演習 27～32回 総合演習		

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名	資格対策（700）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	渡 邊 学				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、ITの知識・技術の習得は必須である。本授業では、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。 国家資格だけでなく、IT企業から一定の評価があるベンダー試験についても受験対策を行う。						
授 業 形 態	演 習	教 室	342教室	補 助 教 員	後藤 臨太郎・田中 実・森 久・高山 健	
授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。 個々の学生が目標とする資格毎にコースを作り、コースごとに授業を実施する。						
教 科 書 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 ●FE・科目A対策 1回～36回 基本情報技術者試験 科目A免除試験 問題演習 ●FE・科目B対策 1回～36回 アルゴリズム、セキュリティに関する講義、問題演習 ●AP・午前対策 1回～36回 応用情報技術者試験 午前問題に関する講義、問題演習 ●AP・午後対策 1回～36回 データベース、セキュリティ、組み込みに関する講義、問題演習 ●AP(ネットワーク)対策 1回～36回 応用情報技術者試験のネットワーク分野に関する講義、問題演習 ●OracleMaster SilverSQL対策 1回～36回 資格試験対策テキストをベースに出題範囲の分野の解説、問題演習 ●Oracle Master BronzeDBA対策 1回～36回 仮想環境を用いた講義、問題演習 ●CCNA対策 1回～36回 ネットワークに関する講義、問題演習、シミュレータを使った演習 【後期】 ●FE対策 1回～36回 アルゴリズム、セキュリティに関する講義、過去問題演習 ●Linux Essentials対策 1回～36回 試験学習サイトの問題を活用した講義、問題演習 ●Oracle Master BronzeDBA対策 1回～36回 仮想環境を用いた講義、問題演習		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報セキュリティ学科

科 目 名		卒業研究（249）				教 科 区 分		専 門 教 育 科 目			
						必修 / 選択		必 修			
担 当 教 員		神谷 裕之、渡邊 学				実 務 経 験 内 容					
週 授 業 時 間 数		1年次		2年次		3年次		4年次			
		-		4		-		-			
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標											
これまでに学習してきた知識や技術を応用し、セキュリティに関する研究、または、制作（以下、テーマと表記する）に取り組む。制作過程を通じ、様々なスキルを学び、利用することにより、今後活躍できるエンジニアとなることを期待する。年間を通じて、次のような到達目標を定める。7月下旬の中間発表では、テーマの発表・プロトタイプの提示をする。発表内容に対して、意見を交わし、機能の見直しや拡張、改善などを行う。12月初旬の卒業研究プレ発表会では、学内在校生に向けた技術発表をし、意見交換を行う。1月下旬には、卒業研究発表会を実施する。発表会では、内定先企業・教育関連の関係者に参加いただき、学生は卒業研究の集大成を発表する。											
授 業 方 法		実 習		教 室		342教室		補 助 教 員		なし	
テーマはセキュリティに関する内容とし、具体的には各班で決定する。1班あたり5～6名で構成し取り組む。教員指導は必要最低限の講義やテーマを進めるために必要な指導・学習環境の整備のサポートのみにとどめ、学生主体で制作を進める。評価のため、各班は、進捗を確認できる資料の提出や課題への取り組みを行う。また、学生個人の制作物の提出も行う。定期的に進捗報告会を行い、評価をつけると同時に、プレゼンテーションについても指導も行う。											
教 科 書 教 材		貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用） 教員が用意する補助教材									

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～8回 授業ガイダンス、チームメンバー及びテーマに関する調査 9～20回 テーマの決定・必要技術の分析と学習、習得 21～26回 各種設計（仕様書の作成、画面仕様の設計など） 27～30回 プロトタイプ開発（プロトタイプの制作、結果からの考察、改善点のあぶり出し） 31～32回 中間発表会実施（プロトタイプの提示、後期期間のスケジュールリング） 【後期】 33～48回 授業ガイダンス、制作物（研究課題）の改善 49～52回 学生・教員による制作物の検証、プレ発表会 53～60回 最終調整、予稿集・ポスター制作 61～64回 発表準備、卒業研究発表会	

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。